838
297
116

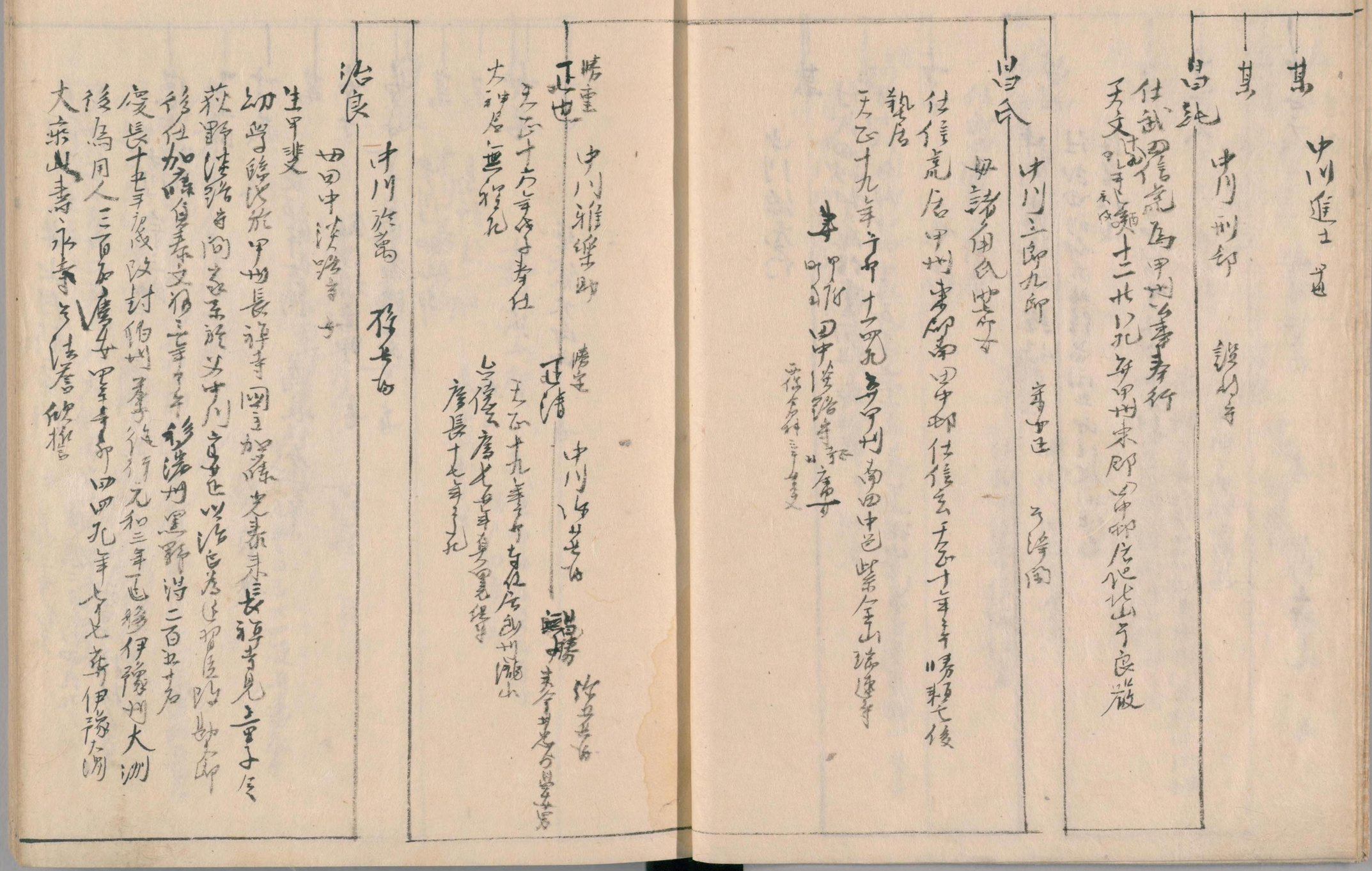
川 関 岸 小川 宮崎
縣 牧 永島 齋藤 吉川
加納 宮澤 畑 系井 栗津
永田 廣瀬 和田 松井 天野
鈴木 寺井 小楠 守津木 根崎
池田 佐久間 横井 草野 中田
同 申戸 柳下 口 桂
鈴木 那須 伊藤 新井

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

根岸信輔氏寄贈

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

女子 友杉豊前守
中川飛之助 権左衛門 寿
秉叔 切上月氏
妻 小島七郎左衛門
寛永年中生大洲
幼時於藤樹先生承應元年春父侍
淀三百石万治元年戊戌十一月八日於備前巴山年三十五

中川権之進 秉旻
小島七郎左衛門 女
妻 四宮野左衛門
生於大洲
仕于侯伊予国政為近習三百石侍
元文二年乙於備前巴山死

女子
嫁

中川権之進 秉旻
實生助治右衛門 三男
能養父跡三百石仕于侯寛政中改此習

助右衛門 父

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

昌良　中川帥九郎
母吉田治兵衛女
妻伊達弥四郎女
延宝四年丙辰十二月九日卒六十二
妻大橋源五兵衛重政女
正保二年乙酉生大洲
従五位下侍従兼左近衛少将
元禄十二年己卯十二月九日卒五十四
寿永寺ニ義厚道節

晴良　中川半兵衛　明
母同
妻伊達弥四郎女
延宝四年丙辰十二月九日卒六十二
妻大橋源五兵衛重政女
寿永寺ニ義厚道節

生伊豫
為侍童所
領千石
中村二郎右衛門尉
寛永十九年来島ニ
寺領百石

業　中村喜九郎

宗良　中川梅林之助
母
妻大石良重女
生大洲
仕加藤泰恒ニ為用人
宝永六年丙寅十月廿四日卒
寿永寺ニ梅林庵

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

女子 政文

女子 南宇 同藩 堀藤藏正光妻

女子 常 同 針谷源助通忠妻

女子 藤 同 小島平右衛門秀山妻

中川岩之丞 宗壽

良高 母大名氏

生於江戸

継父跡三千石仕え元文三年卒

女子 引 同 石田政方室

女子 菊

女子 松

女子 右筑

時良 中川万之亟 母大名氏

豊良 大島碩庵 改中川常淳

為大島碩庵養子 後付藤飛騨守

在二百人扶持

女子 母徳田氏

康 同藩 寺島彦右衛門武伴妻 生男子

元禄十年丁丑十一月廿四日富士山如法寺

にて天祝貞祐信女

女子 多喜 母藤江氏 藤江紋左衛門妻 北条如法寺

嘉 中川傳三郎 友進 源左衛門

興良 實加藤太郎左衛門尉

生年詳
文禄十二年乃長岡越前守
毒永寺与義鑑自殺

女子 津満 父 母大橋氏女

女子 由良 母同

女子 幾知 母同 嫁孝良

女子 某 母同 中川孫太郎

女子 訓 母同

孝良 中川傳之進 文支

實母同 山本加兵衛尚久二男

實母曰大橋源左衛門尉

復元年乃十二年也生託伊豆
國長岡加右衛門尉養父ノ跡為百石子保元年
春元實命加右衛門尉元文元年春預兄手跡高書行
元文二年四月十七日死法名天津白軒天廣安性居士

元禄四年乃八月二日卒如法寺
乃明秋幼徳
天和二年乃九月九日卒同寺
乃松堂壽永大姉

時良 中川傳七郎 善兵衛

寛永廿年卯月廿日
寛永大系

妻加藤太郎左衛門尉光泰女 母阿蒲局久々子

寛政九年丁巳二月九日卒 壽永寺

法名大風

妻加藤太郎左衛門尉光泰女 母阿蒲局久々子

寛政九年丁巳二月九日卒 壽永寺

法名大風

寛保三年癸亥六月廿六日卒 行年六十

安永七年戊戌九月廿日卒 壽永寺

直良 中川鉄五郎 外衛

擊次郎

女 宝暦四年生 延享二年伊予

某 宝暦四年生 元服 平九郎 実ハ 清房

女 千賀 山本加兵衛義宴寿 宝暦七年生 安永三年九月廿八日卒

信良 中川初次郎 儀兵衛

母 山田清九郎房行 女 加恵 生安永三年午九月生 夫 洲

再嫁 徳田九郎兵衛 寛政九年己巳九十六才 寿永寺

女 親代 天明元年辛丑生 夫 洲

文化十年酉年死三十六才 寿永寺

号常玉貞雪大姉

墓 中川七十三郎 孫 加藤傳九郎嫡子

明和七年庚寅十二月生 大洲

安永七年戊戌九十六才 寿永寺

納入後移高輪 泉岳寺 和尚近侍

文化十年酉年預先逝 文政元年戊寅

同十二年己丑二月十三日 寿永寺

同七年甲申十二月十三日 寿永寺 義伝

安兵衛光義 宝暦九年己卯生 大洲

同八年戊寅 寛政元年 寿永寺

子 松衛

後良 中川禹次郎

母 女子

寛政三年辛亥生

女子 母 伊予

寛政元年己酉生 大洲

文政元年戊寅 寿永寺

号春屋自鶴大姉

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

良平　中川鉄五郎　文治
嘗

寛政七年十二月生大洲
文政元年四月九日封二万石従四位下侍従

文化元年十月生大洲
年書初而謁

文化四年十月廿日元
年書而謁

宗中之年中之年
年謁

女
母徳姫氏
女子
嘗
男子
嘗

山縣

[illegible]
[illegible]
[illegible]

岡直　住濃州山縣移於土佐
嘗

山縣　岡政　山縣先生
嘗

頼順　山縣二郎
嘗

頼忠　山縣三郎
嘗

頼定　山縣孝
嘗

頼伍　山縣左
嘗

頼文　山縣彦三郎
嘗

頼為　山縣彦三郎
嘗

頼重　山縣
嘗

頼道　山縣
嘗

頼持
嘗

頼興
嘗

頼經
嘗

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

頼時 ― 頼順

女子 ― 送光駿河守孝往妻

女子 ― 頼俘 山縣下野守 仕於武田 ― 女子 ― 山縣勝右衛門尉 ― 重純妻 ― 重純 又十郎 貞文 重純死後 為岡山之助養子 実朝

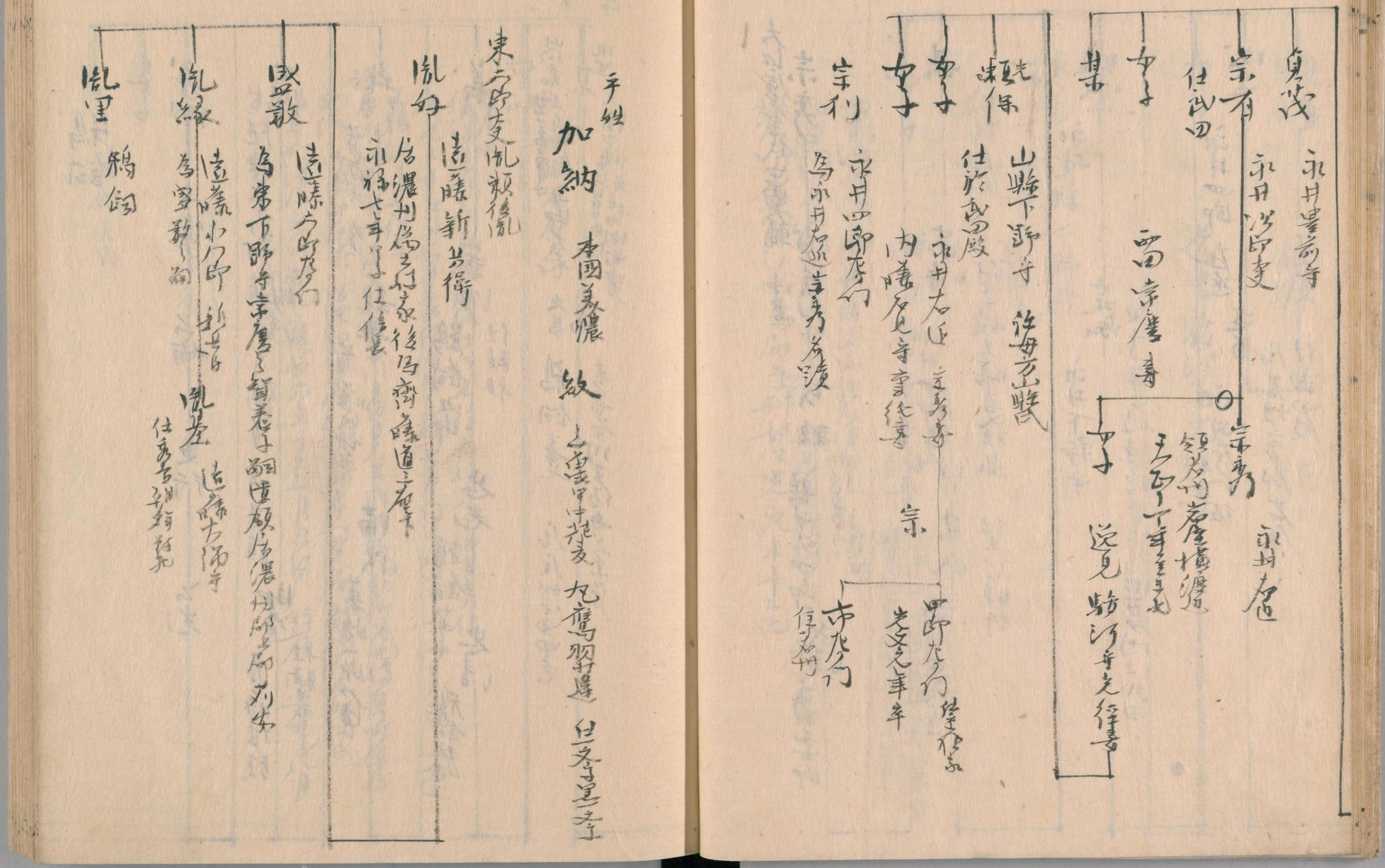
仕大猷君為御使時往於蝦夷地為向乎刑部卿公定兵衛乎先

大江廣元五代 宗秀 ― 廣宣 中書 ― 宗秀 ― 某 ― 宗時 永井四郎左衛門尉 仕之故大膳亮 ― 宗氏 永井宮内丞 ― 時成 永井 ― 某 永井下野守 永享年之時持参後還房州住於田

定 ― 永井四郎左衛門尉 ― 定直 居若地之故若殿 仕武田殿

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

鵜飼
信

秀卿 — 幸常 — 小脩 — 文行 — 玄光

小清水 — 仕勝左ノ尉 — 男 助清 — 主馬首 — 千蔭 — 助道 — 首藤権頭 — 佐和義

親清 — 首藤大 — 左ノ — 親通 — 首藤式部 — 通次 — 基勝 — 左ノ尉信

義仏 — 小清水 — 仕頼朝 — 鵜飼五郎太夫 — 忠光 — 鵜飼平 — 忠清 — 鵜飼弥

重政 — 加納久左ノ門 — 生成州 後移濃州 尊皇攘夷ノ志行ヲ以テ後ニ移ル 慶応三年ノ冬将軍徳川慶喜公大政ヲ奉還シ玉フヤ翌四年正月三日鳥羽伏見ノ戦ヒ起リ幕軍利アラス慶喜公ハ軍艦ニ乗シテ江戸ニ帰リ玉フ 時ニ新政府ハ慶喜公ヲ朝敵ト看做シ東征大総督有栖川宮熾仁親王ヲ東海道鎮撫総督ニ任シ給ヒ 勅使橋本実梁卿ヲ副総督トシ給ヒ 東山道鎮撫総督ニ岩倉具定卿ヲ任シ給ヒ 勅使沢為量卿ヲ副総督トシ給ヒ 北陸道鎮撫総督ニ高倉永祐卿ヲ任シ給ヒ 勅使四条隆謌朝臣ヲ副総督トシ給ヒ 各藩ヲ率ヒテ東下シ給フ 時ニ徳川家ノ臣タル者ハ皆朝敵ト看做サレ 慶喜公ノ命ニ依リ会津藩ハ東北ノ諸藩ヲ率ヒテ奥羽越列藩同盟ヲ結ヒ 官軍ニ抗シ 榎本武揚ハ軍艦八隻ヲ率ヒテ函館ニ走リ 五稜郭ニ拠リ 蝦夷地ヲ占領シ 箱館政府ヲ樹テ 官軍ニ抗シ 慶喜公ハ水戸ニ謹慎シ給ヒ 勝安房守ハ 勅使ヲ奉シテ江戸城ヲ受取リ 江戸ヲ鎮撫シ 徳川家ハ駿河ニ移封ニナリ

永田

次郎左衛門正久二男

永田七郎
貞久 ― 号道祐

貞経 ― 永田藤三兵衛
大正十九年為酒井河内守重忠勢力

貞元 ― 永田清藏 ― 妻鈴木祐安女

貞吉 ― 永田又藏
永禄四年為尊孝仕
大神君為御中性元重二年二方原ニ而戦死

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用

永田善左衛門
仕松平中務
昆太郎左衛門　早也
正敦
為日比市左衛門正助養子仕永井左近将監
日比十左衛門
正遠
兄正敦早世故、永井直勝君命跡目続
永田九左衛門
仕水谷伊勢守
片桐與兵衛
為片桐氏子
良直
芭之助
仕土屋大膳亮
女子
金三郎
女子
女子
女子
正信
仕永井左近将監
日比惣兵衛
女子
女子
女子
女子
昆左太郎
女子
堂之進
源三郎　松平陸奥守
方右衛門
安昭
為松平隠岐守家臣
春田善兵衛
春田氏養子
某
春田善兵衛
仕松平隠岐守
女子
女子
女子
荒瀬長左衛門
毛藤次郎
向猪股社家
荒瀬次郎右衛門
原田半左衛門
桃原一郎左衛門
永田平兵衛
女子　国書ニ仕信州
寿
寿
寿

某 永田清成
住三州岡崎

某 永田清兵衛
住三州池鯉鮒

某 永田六兵衛

女子 鈴木八兵衛 妻
女子 庄助 妻
五郎左衛門
女子 五人

子 二村木郎左衛門 妻
三州岩津住
女子 永田六右衛門 妻

永田加兵衛義成
住酒井河州守忠行

某 永田清重
松平右京亮
女子 鈴木作兵衛 妻
陸奥守九鬼
女子 嵯山武兵衛 妻
之定大膳亮
女子 村松清左衛門 妻
鈴木作兵衛 妻

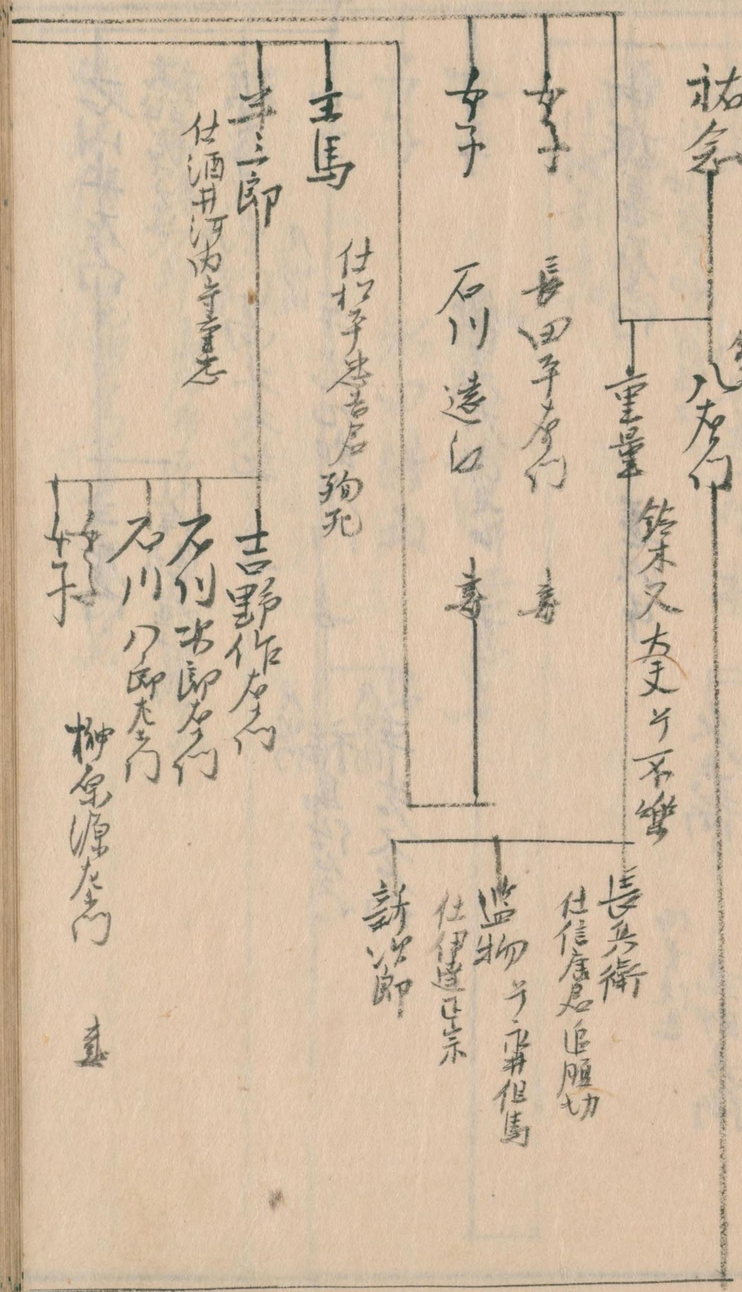
清左衛門 住之定
甚郎
女三人

息寿 永田藤七郎
屋敷前田軍敗死

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

鈴木



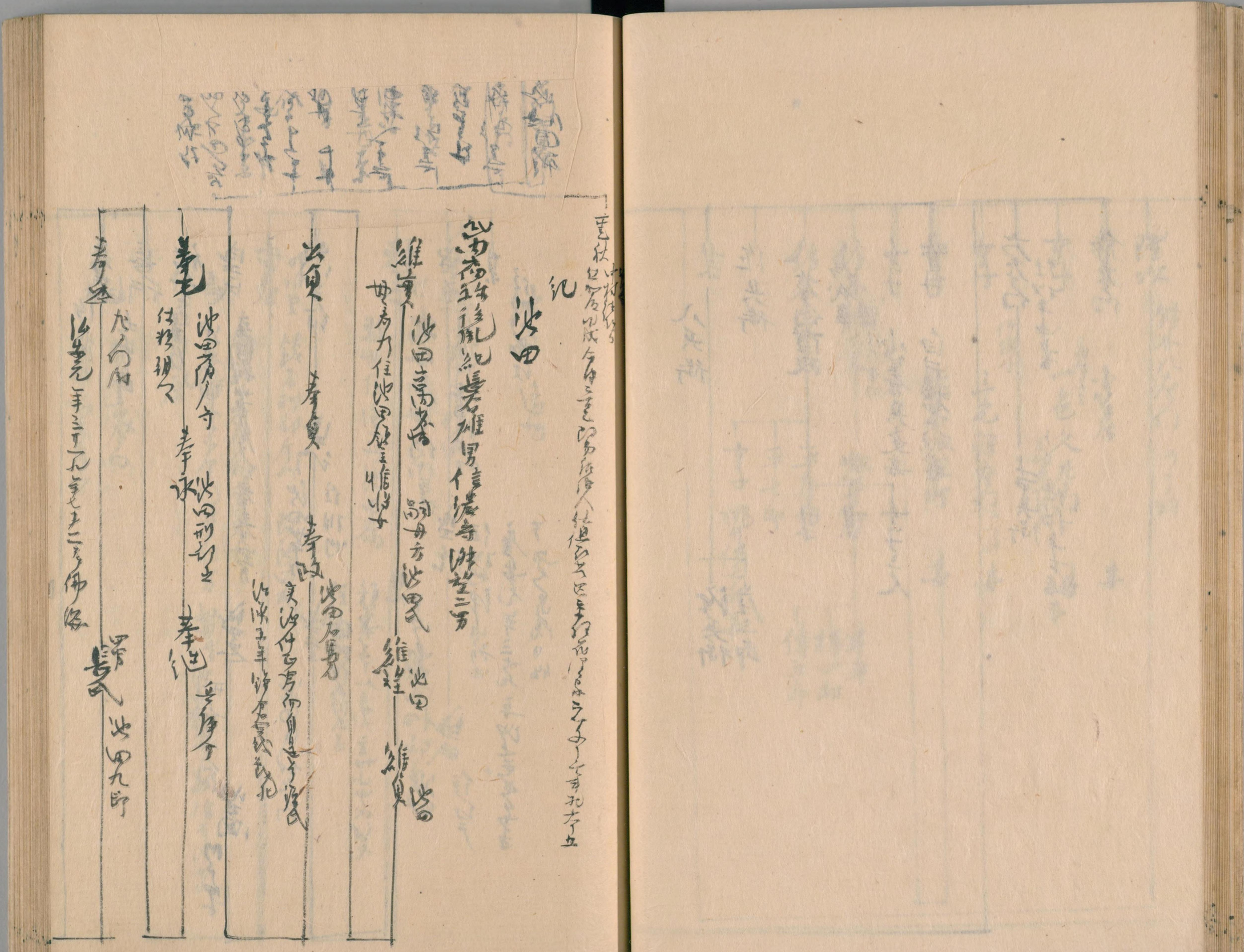
国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

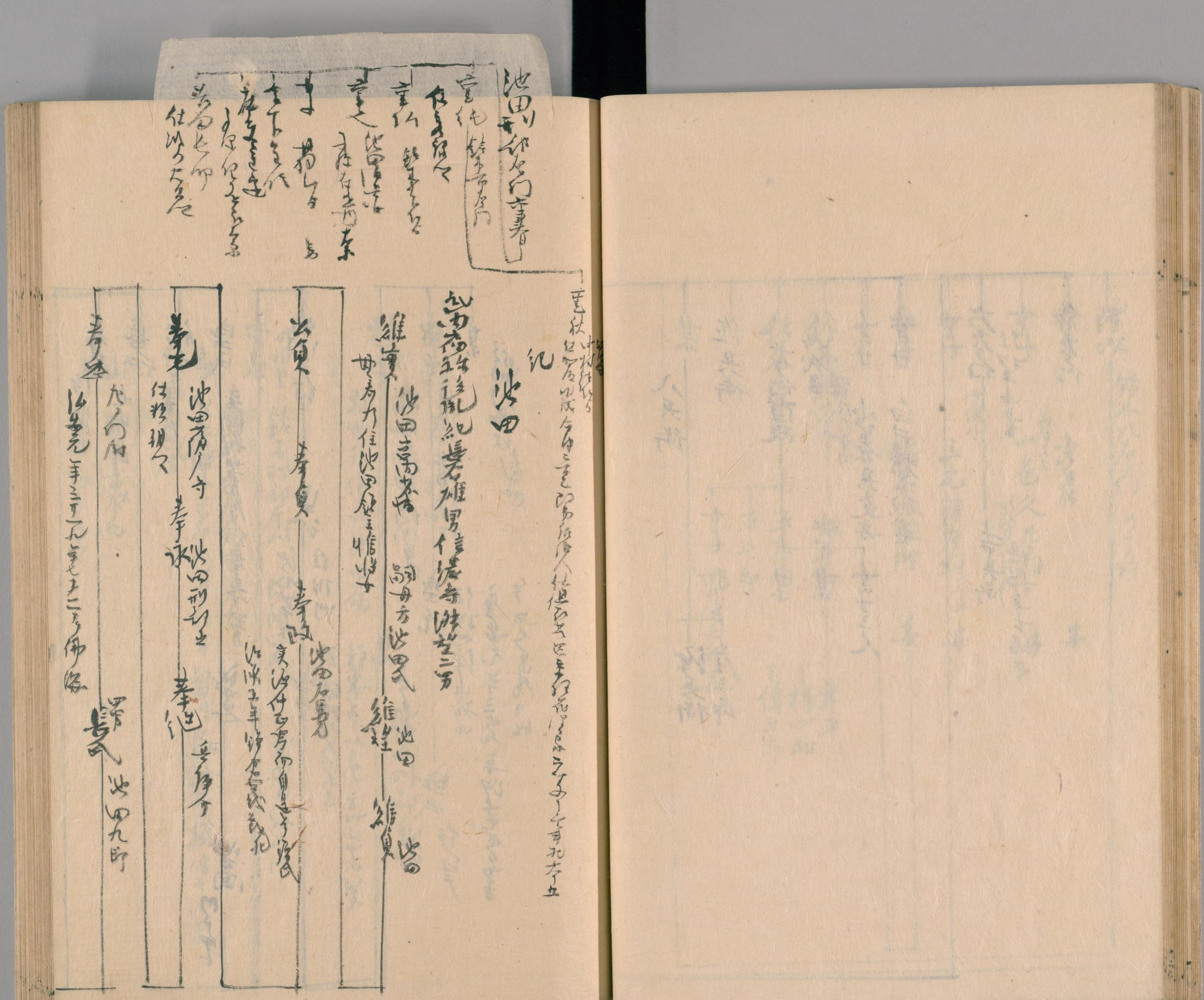
ガラス使用

石川半左衛門
大神原玉
半左衛門
金語金十郎
女子
女子
尾州臣 高木外記 妻
尾州内 平岩九郎左衛門 妻
女子
渡美太郎右衛 妻
中根善左衛門 善次郎
仕柳原式部大輔殿
中根筑後 仕鳥居左衛門意
渡美久兵衛
始め杉平三郎妻道
久兵衛
七郎左衛門 仕松平紀伊守
女子
尾州 安藤長左衛門 妻
御書院番 九郎兵衛
渡美太郎兵衛 仕尾州
女子
渡美半左衛門 仕越前宰相
女子
杉平傳一郎 妻
女子
鳥 鷲山 出汲平崇意妻
永田清蔵 妻
鈴木六左衛門
鈴木傳左衛門 鳥居彦左衛門孫二男
鈴木傳六 元禄左衛門孫二男 九

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用





国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用

辨覺　法印大僧都

實忠　開　左近大夫將監　判官代
永久二年三月九日任時政川之仁元年甲申加賀州
於庭田内五百町行治二年壬寅卒

政孝　開　四郎左衛門尉　將監　文永八年未十二月死

盛忠　開　太郎左衛門尉
實氏　開　二郎兵衛尉　政所　盛正　開　弥太郎

盛光　開　太郎左衛門尉　開　春秀名乙

盛勝　開　治部卿　左近將監
霞應三年春八幡軍敗死

盛政　開　四郎

始任鎮倉北條高時七後信尊公御賜伊勢州鈴鹿郡
貞治四年乙巳卒法名乃憲

盛經　開　八郎
某　開　九郎
某　開　十郎

盛澄　開　豊前守　後乃道栢叢
生於伊勢州
永和四年戊午謁所領於平之郎盛信遠田州神戸乞相叢

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

相十年卿初為进堂五十二貫四百文回所鶴岡四十貫文由
此以年貢四百文賞得同所中卿館島共貫七百五十文
同同所大納言殿知行縣十四貫九百二十文
同同所小机一宮二十一貫文同武州川越二郷荷立參拾貫
三十八貫七百文 凡百九十九貫九百文 外分米生文 四落
實得時四頭故着至下迫無得

盛氏 南 兵部
付北條氏白旗

盛定 南陽院殿
付北條氏同陣
二十五貫四百文 引地中卿初位分
賞得 壹内十七貫四百文 加恩
字貫三百字文 九字五貫文 音五十文

盛昌 開 平二
盛子 開
盛相 開 平二 左衛門尉
諏相
周憧

盛 開 小平次 民部大輔
生於伊勢
與同姓兵部少輔盛氏石和逐守稍至爭鬼
以意四年乙卯十盛氏失利注落 盛盛逐治其已為淺山城主
上京而給就堂町家賜書
守永錢道雖祥述

盛雄 開 幸千代 母 [illegible] 下野守

女子 大永年間文遺領

女子 津戸孫十郎 妻

女子 小田持朝 妻

女子 岩間雅楽助 妻 後妻 梶定

実信 開 伊賀 盛幸 嗣 加沢

盛信 開 [illegible]

母 [illegible]

生於伊勢州

[illegible]

女子

天正二年[illegible]

同十年[illegible]

[illegible]

女子

一政 開 左兵衛尉 長門守

母 蒲生左馬助定秀女

天正十九年[illegible]

寺於奥州九戸役[illegible]

大神君勅於平泉治[illegible]

度長五寸[illegible]

給食邑[illegible]

五万石[illegible]

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

清和源氏

岩澤

本國近江

六條判官為義男十二男
加茂冠者義次十世孫
景義　近江七郎　六上佐七郎
屬尊氏公於討滅甲斐武田一條次郎忠頼手上佐氏

景次　上佐左馬介
実千田右作左馬介義勝二男
実母四條猪熊路守為景女

景重　上佐三伯守
母上佐近江七郎景義女
幼號千田右作左馬介義晴二男早世無實子故為副移千田右作城領地

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

七百餘人捕亀防戦大勝北条政子之甥
（勝政落城後為旗下天文六年丁酉卒）

貞清　宮沢若乃

貞家　加賀守

貞房　宮澤刑部

仕浅井長政同備前守政元公
天正九年辛巳十一月九日卒享年六十二

女子　馬場右京長基妻

宮澤　平八郎　刑部

望長　女

慶長二年丁酉仕池田三左衛門輝政輝政寡

生年月日未詳

女子　馬場右京長基妻

房次　宮澤主膳

仕京極若狭守高次後浪人

女子　馬場将七郎　慶長十一年丙午生
　　馬場将七郎妻

国十五年関ヶ原浪人

某　宮澤彌右衛門

仕京極若狭守高次

女子　馬場将七郎妻

宮澤　平之丞

宮澤　右松

女子

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

村上源氏

廣瀬　李四掃部　汝九之孫

村上源氏ノ名望ナル家ニシテ十世ニ亦松律師則祐ヨリ廣瀬ト改称ス　近江守　崇光朝

師範

女宗祇法師ニ道ヲ学ヒ創掃部助ニ任ス廣瀬ニ学ヒ義則ニ養子トナル義則ニ嗣ス則祐ヨリ家督ヲ譲ル

義則　亦村上源氏　大膳亮

室修理亮某女

嗣娶則祐ノ家督ヲ掃部助ニ任ス

満則　亦右馬助

助師ニ従ヒ戦死　子

義祐　赤松六郎　立物寺
遠揚州有馬郡有馬　侍家　有馬兵部大輔

祐秀　廣瀬四郎右衛門尉　持彦　治部少輔
廣瀬五郎　左馬助
治部　先在馬助治則九拳子　同其遺跡

祐則　廣瀬彦五郎　飛馬
侍従　侍家　廣瀬修理亮
従五位下　号八代　子也

則国　廣瀬治部丞
従五位

祐雲　摩訶止流
廣瀬治部丞

親則　廣瀬源兵衛尉
親則　初又祐則改名

国正　廣瀬太郎兵衛
生於播州

為則　国死去時国正年弐歳　母又屋嶋城主
後母又説則卒去之後祐則幸説則家督　国正成長
志播州高砂閑屋館諸国退治於神戸信孝　岡山御陣之節
信孝御感悦　国正憤懣之則四人堂言

正輝　廣瀬又太郎　世治寺
生於播州姫路
少年於田信雄得意　後信忠信孝移甲州
天正十年壬午　正九二死年廿九歳

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

正次　廣瀬藤兵衛　花村住居

母花村八左衛門正倫女

大永元辛巳生於信州

天文辛酉十九於越後州海野堂前仕信州武田信玄晴賢左戦功有之七歳

永禄四年辛酉九十信州川中島筆頭高名信玄感賞妙安方花村ゟ

知行貳百貫拝領

正雄　廣瀬弥兵衛

生於信州

仕武田信玄晴賢左戦功有之七歳

天正十年壬午晴賢敗北後右命為甲斐加恩地百貫

則勝　廣瀬内膳

生甲斐

仕多賀谷修理亮重経為大名方

則和　廣瀬弥兵衛　神取又兵衛

貫田姓郷左ゟ　長男

依縁有之付幸人也然依多賀谷

修理亮重経命為養子仕多賀谷家

多賀谷断絶後浪人相居常州帝取

四神取又兵衛

二　某　神取又兵衛

実ハ廣瀬内膳ニ仕御旗本ニ

一　某　廣瀬権十郎　権左ゟ

仕織田常真ニ生常真死後浪人

於鶴岡ニ死

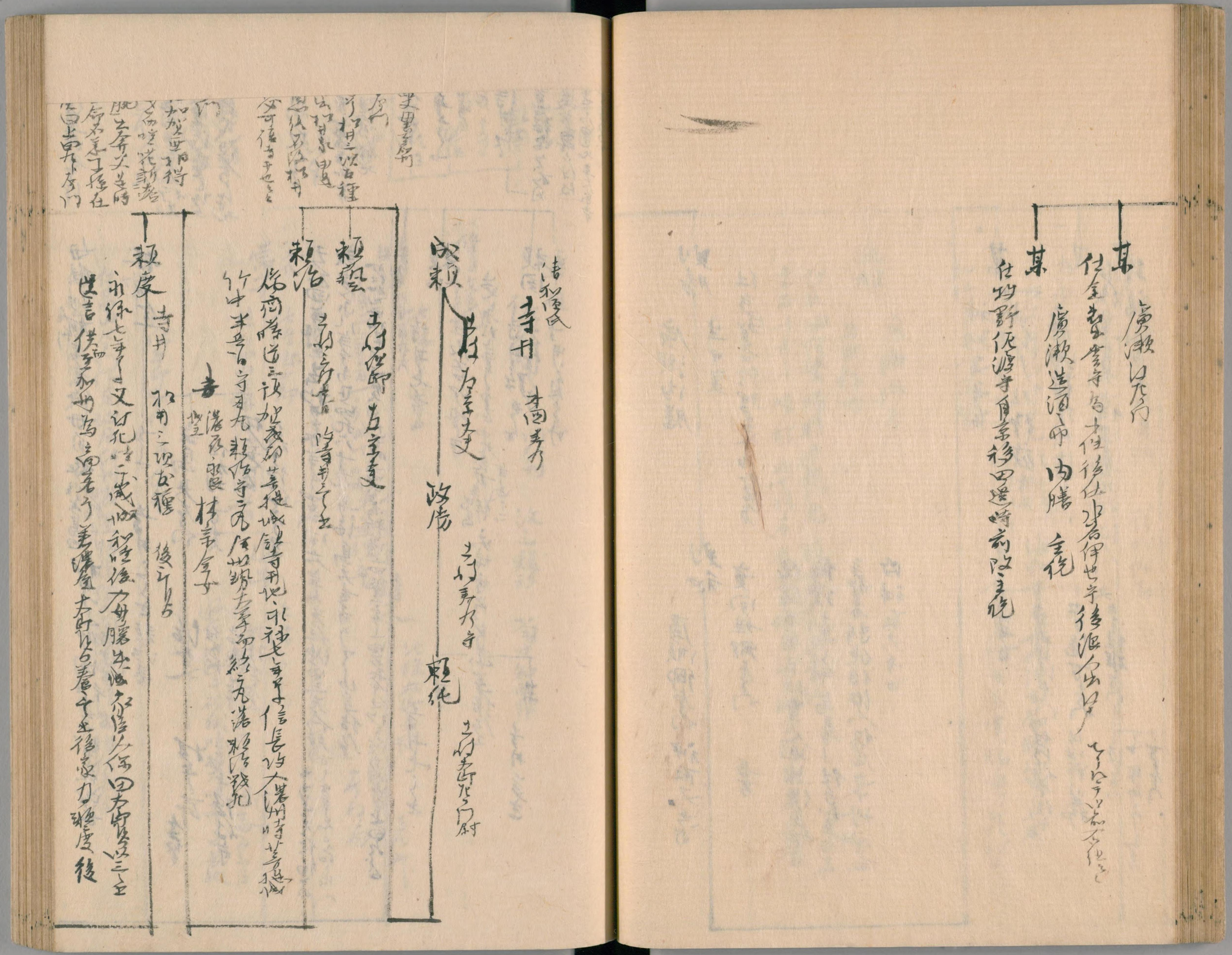
又十郎　権左ゟ

又十郎　権左ゟ

又兵衛　権左ゟ

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用


清和源氏
寺井
義家
義綱
義国
義親
義忠
為義
為朝
為宗
為成
為仲
為時
為頼
為朝
為宗
為成
為仲
為時
為頼
義康
義朝
義賢
義平
義朝
義賢
義平
義朝
義賢
義平

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

資清 須藤太夫 刑部丞 丁野権守 於京都而平治乱殺死

資業 刑部大輔 又資清殺北政子男共匿於甲州稲積庄後還於本国野州 刑部次郎

資房 刑部次郎 兄弟皆同匿於甲州後還於本国

資隆 刑部大輔 肥前守 仕源頼朝卿 配室河津三郎祐重女 於鎌倉勝長寿院前 左野州墓西

光隆 左衛門大尉 如意丸 又名智左野州墓西

泰隆 佐伯左衛門尉

幹隆 芋洲二郎

為隆 福原四郎 刑部次郎

之隆 刑部次郎

雑賀権頭宗綱女 雑賀又太郎初名与四郎 婿書於霊隆

隆泰 滝四郎

満隆 澤村七郎

義隆 望月八郎 禅門九郎

朝隆

為隆　卢福寺开祖
宗隆　加須餘人　下野寺
　　毋中山氏
　　嗣家智改資之
　　仁源頼朝之源平合戦尽軍功顕特賜名誉
　　乱治後為井州五箇荘信州前主左為州東左忠川原
　　武州太田庄備中猿掛庄上杉氏下野寺住寺北条
　　奇城州伏見即氏滅後下総於野地修築廟於恩田邨
　　宁御霊宮

資頼　加須　埋前寺
　　室宇井
　　嗣加須家智於住田之時分

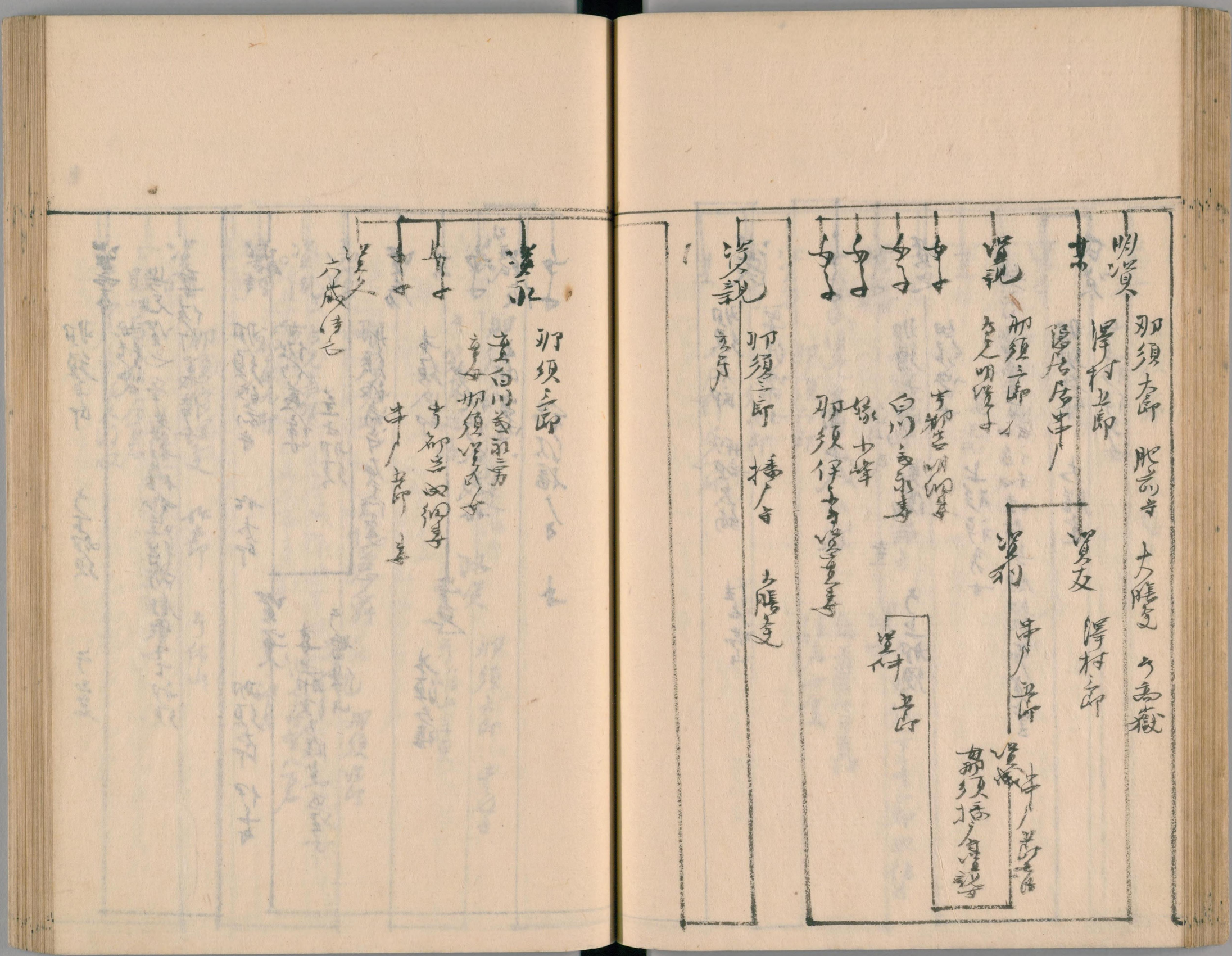
光資　加須太郎　肥前寺
　　継加須家智
　　伊豆野住時代

資長　荏原三郎
朝資　嘯岡四郎
廣資　稲沢五郎
資家　河田六郎
資氏　沢越郎
　　某
　　大田次郎
某

資村　加須家所管寺
　　自領名領分領
　　移住領民

某
某
某

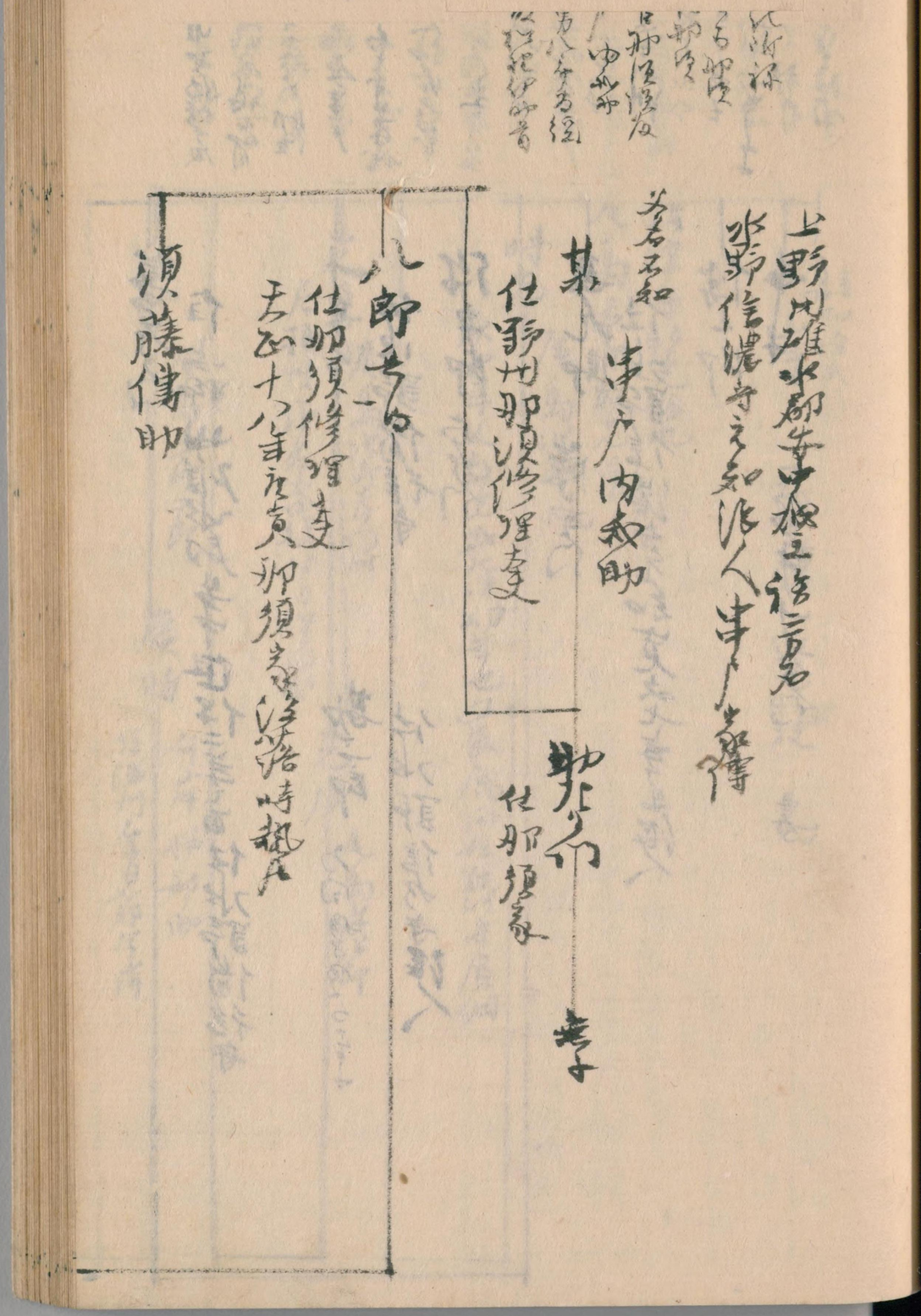
資泰　加須家　加賀寺蔭
　　法名月岳
資元



国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用

善左衛門
住上野州佐水郡
勘三郎
住水野備後守
備中守
安元
住水野備後守
備中守
安元
住水野信濃守
信濃守
安元
安平

善尊
仕上野山城守 雄水郎 事 任侍従 仕水野備後守
十兵衛 勘三郎 仕水野備後守
備中郎 庶子
仕水野信濃守 浪人
九郎 陸奥
仕水野信濃守 元知 宣之 七年子 浪人
傳之郎
安中 十兵衛 妻

清和源氏
岸 李田美濃 改九郎 捷 先
摂津守 勅光 後改
庵島左近郎 勅光 号
時光
法眼四年父勅光跡ヲ以テ幼年也ヨリ長岡性駿河守廣綱
光廣 庵島次郎
廣助 庵島三郎兵衛
廣時 信濃守 岸 称駿河守 法名雲松寺殿月郎
伯濃州 年号郡号岸

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

某 岸本武吉
仕内藤豊前守或信

某 岸伊兵衛
仕内藤豊前守
某 岸 美濃守
仕内藤豊前守
某 岸 金之助
重時
為沖之守時係代官役

某 岸 常吉

源氏 永島

傳曰方源次郎資忠
無子光方四方和守資高
資行始仕縣主島善奴馬鳴世一郎正幸又資高乃孫
氏綱ク幡係代官役
永島内匠光徳行為
方加之婦祿遠以守護平
諏訪部氏者
拜

資忠 永島安之丞
母係諏訪氏
資行 永島安之丞
資高 永島内匠光徳行為
資行 永島安之丞
母係諏訪氏
資高 永島内匠光徳行為
資忠 永島安之丞
母係諏訪氏
資行 永島安之丞
母係諏訪氏
資高 永島内匠光徳行為
資忠 永島安之丞
母係諏訪氏
資行 永島安之丞
母係諏訪氏
資高 永島内匠光徳行為
資忠 永島安之丞
母係諏訪氏
資行 永島安之丞
母係諏訪氏
資高 永島内匠光徳行為

某 永島作左衛門
慶安二年御小姓光徳院様御代
寄
文久二壬戌年十二月廿四日
于信濃飯田遠寿

永島四郎兵衛
寛文二年寅七月六日
于大徳寺塔頭玉林院
寿
元禄三年午正月七日
于大徳寺塔頭玉林院

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

多治比 丹治姓
大田 本國武藏

傳曰宣化天皇四代多治比王以多治比爲姓
賜姓朝臣其男中納言廣成姓改丹墀
又号多治比大平十二年正月十二日薨去
廣成長男従五位上阿波守従五位上真成大長九年
比真人 真峰 改丹墀又爲多治
四月廿五日改多治比又爲丹墀後号丹治
自是而后爲丹治姓焉
武藏國丹壹皆出是子孫矣

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

宣化天皇四世多治比古王男
中納言廣成二男従五位上安頭
負成後胤横河密二時経六男
知佑知時廣始 知氏
時廣七世孫

時常 知明 四郎左衛門尉
住武州

時道 知大助
住武州

時能 知次郎左衛門尉
生於武州
自十六歳好相撲業 仕無勝時能腕力太殊勝
度々召寄数百人後遣於信濃州葉山野江海猟漢

時重 知次郎兵衛
住武州

時房 大夫房
陸伯父時能於越前州腐骨被戦死

嘉禹落厳石恰如得神変気健心不撓毎臨戦場
歌中堅数攀嶮嵓周勤遠武名於新田左中将義貞
尽一軍力矣義貞戦死後照右義助留止寺龍於越前州
凌城帰越前州国府同年七十仍義助之下知時能攻落
畢三百餘矣攻落金津長崎河口河合其他歌城十三城斬
首百卅壹顆兒等悉殺害而猶々先国府籠城一見仍度
度陽寄高経父子餘兵囲時能時能奮戦得勝数所也
其中中白羽矢右脇ニ当痛之時能死去矣
或曰暦應二年乙卯十九五仍於

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

時定　畠六郎太郎
時綱　畠次郎時光　時氏　畠九郎
義房　畠次郎
遠江守　相模守　當中納言　房時　畠
任相州
貞　畠
某　畠
某　畠
某　畠
某　畠七郎
永福寺中仕當番為御目代
為北條家御使時久宿邑為浪人
大神右伊賀路御越時御主奇妻事
有道出仰若丸鳥羽殿
畠次郎
畠次郎
畠
畠
畠

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用

稿

和田 書陵部

敏達天皇 ― 欽明天皇 ― 高位

諸兄 ― 葛城王 井手左大臣 母従四位上県犬養東人子

天武天皇十三年甲申生 於城邑賜葛城王
和銅元年戊申十二月五 天皇寵臣橘宿禰諸兄
勅曰遣以為汝姓也因為橘姓 為高丘平人年四十二葛城王
従四位佐為等賜橘宿禰姓 天平勝宝二年庚寅正月九日正四位上
天平勝宝二年庚寅正十七改橘諸兄

諸方 ― 正方 ― 諸清 正恒 正五位下左津守

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用

建武二年[illegible]義貞大軍有止洛之[illegible]
迎拒[illegible]等馬[illegible]
[illegible]也正成最曰[illegible]
[illegible]
[illegible]

忌寺五百呉出於摂州住吉大社
宗和細川陸奥守頼氏為大将
而打入寺内敵勢忽敗走
一族凡二千餘兵下河内国
隔陣七里正成行一族七百許
六角判官内匠助等
等北七百退於高安国
頼氏為両大将従京山名子息
国共官正行率兵五百
陣山名時氏所二河寺原四郎
進来正行揚鼓山名時氏初劇
突戦山名勢大利退天王寺山
大将方即令戦死正行得大利
為大将出四甲冑交待
敵見将交遣長井後遣厚東駿河守

宇都宮三河守遣高松信為等
着於八幡細川陸奥守頼氏
高刑部太輔国橋広守南部遠江
遣仕来依渡判官国
須来備中守宇津木中二郎
八郎左衛門尉
底島神崎楠井水無瀬等
国年十七北条正行父正時
向欲国五年正月正行
為尊氏卿代官
死七騎下野守原深堀遠江守
千葉宇都宮皆大利死傷多
伐高師直陣直敗之伐取
報賀次郎等並九州須
甲斐守

不得働兄弟若違而死七天正行年廿六歳

時 柿沢助

與兄正行勠力勇和五年五正中須参来呼吏属而不
得働而與正行指違死七天

儀 柿沢助房門 右馬頭

生於河州 号屋三郎左
居於吉野当
観應三年壬午義詮将軍之時
義詮卿之子也 正儀手九三和甲辰年
河州打捨寺清氏討亡其寺頭氏土佐大膳亮等兵六千
仰相接寺清氏討亡其寺頭氏土佐大膳亮等兵六千
山名方仍而正儀和与為滅
山名方仍而正儀八隠北畠顕
山事和與河内義山方於住吉野
以退八幡山宮手土居住東山名南北朝両
軍勇名日本記相見無接弥花開寺卒上夜立向其跡

落云々

延文四年己亥十二月三義詮卿
事有悩以三百騎野捨重馬也
無何程云々 康平四年辛酉
正月十六日軍無利治病卒為也
望天下管領 軍不得留足於
仰清氏之方正儀一人可為
若馳戻治四国敗治其
義可属天下於朝敵仰
云々 柿沢助房諸司
三年七月廿六日卒也 即日明年
住吉天王寺住寺都而西方軍
清氏滅打捨 仰仰清氏戦打後
高乃被討焉

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

橘

小橘 本田河内 紋略

右方正室之氏
和泉守備彩男

成冨 和田氏部之娘

成綱 和田河内守
康久之事也為事君
退河也

成廉 和田次馬
居和泉河内

和田新左衛門之娘也

正俊 和田刑部
生河内
為民間親居於河内
渭山村田園立百餘石為
卿之領地而世々仕焉

正重 和田孫助

九十三人

正成 楠多聞丸 判官 河内守
母多賀氏
建武二年中興五卒五位侍従
楠兵衛尉 楠帯刀左衛門尉 楠左衛門尉

正氏 和田七郎
菅
妻宮内卿局後改正妻嫡
建武二年中興五位侍従
極官和泉守治之所

正行 楠
正時 楠
女 楠帯刀左衛門尉 右馬頭

菅
神祇官大副兵千口師孝

重次 和田新発意
貞和五年七月五日於昭堂戦死
馳名楠戦場収骸空以元七年
和田伝次郎

高家 和田孫次郎
従昭堂為先住民号吹毛

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用

平姓

横井　本國伊豆　改　二鞆　幸拳

時行―基―基―基―時宗

北條氏一門時政六代
相模次郎時行

時宗　横井掃部助

仕北條氏改氏道

時目　横井伊織

生伊豆

天正十八年於京北条亡後浪人
方神君慶長十年召出為義直公
御家老屋敷地拝領仕候

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

時興　横井伊織

時忠　横井作次郎

前芝　横井半兵衛　同義　横井半兵衛

前代　横井半兵衛

芸藩

柳下　李園相模　後陽明門梅鉢　柳凱翁　今用名三也　五三桐

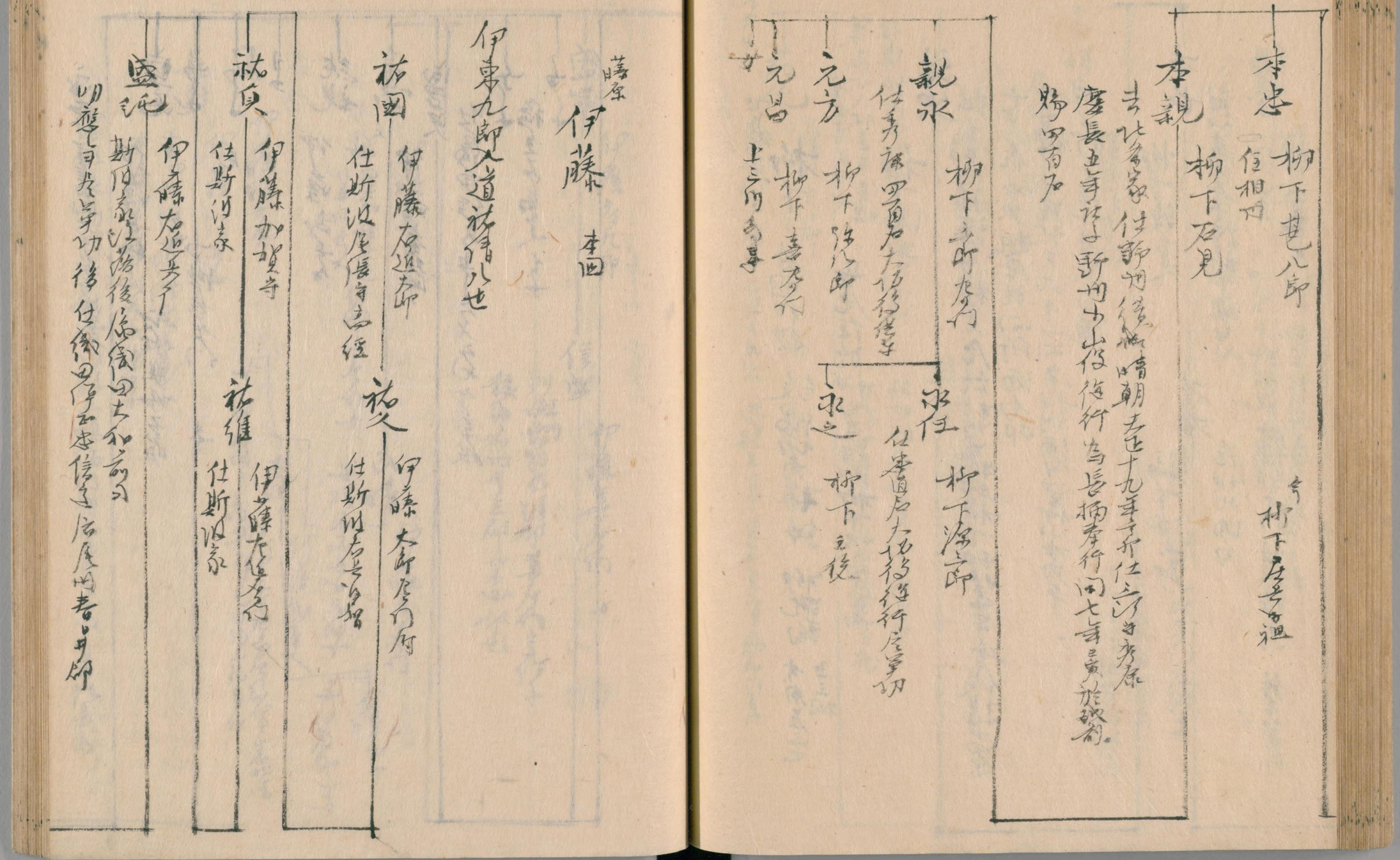
本典　柳下源吾

本長　柳下源吾　李著　柳下弥太郎

譜代　須田勇人　今用名中島新兵衛　晴波藤秀　柳下弥太郎

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用


柳下甚八郎
住相州
柳下石見
本親
去比叡山住職相傳晴朝法印十九年于齢仕三ケ条原
慶長五年於野州小山役陣為長柄奉行同七年二月於駿府
賜四百石
柳下彦兵衛
柳下彦四郎
親永
住秀康卿大名分格
永在
住駿府大名分格
柳下源助
永之
柳下主殿
元方
柳下治助
元昌
柳下喜左衛門
女子
伊藤 左衛門尉
伊藤 大蔵大輔
伊藤 左近将監
伊藤 加賀守
住新田家
伊藤 左近将監
伊藤 左近将監
伊藤 右近亮
住新田家
伊藤 右近亮
住新田家
伊藤 右近亮
住新田家

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

源姓

小川　本國近江　改姓　橋輝　七寶葵唐花

加茂光首義次後流
近江守頼景義七代

宗貞　磯野左京亮　自加茂宗貞
初地頭小川邑居

宗貞　磯野源次郎　自宗貞
住淺井郡寺久政

宗親　磯野源次郎　改姓　淺井
住淺井郡寺久政

宗重　小川少卿　陸奥守
名初郡主小川邑

吉長　伊藤武兵衛　自吉長
初地頭小川邑後住伊香郡

吉房　伊藤左兵衛尉　自吉房
又名勝生左兵衛尉
住淺井郡西上坂村後住伊香郡

女子　初嫁西上坂七郎重元後嫁于自閑孝立

女子　嫁于伊藤左兵衛尉吉房

女子　嫁于自閑孝立

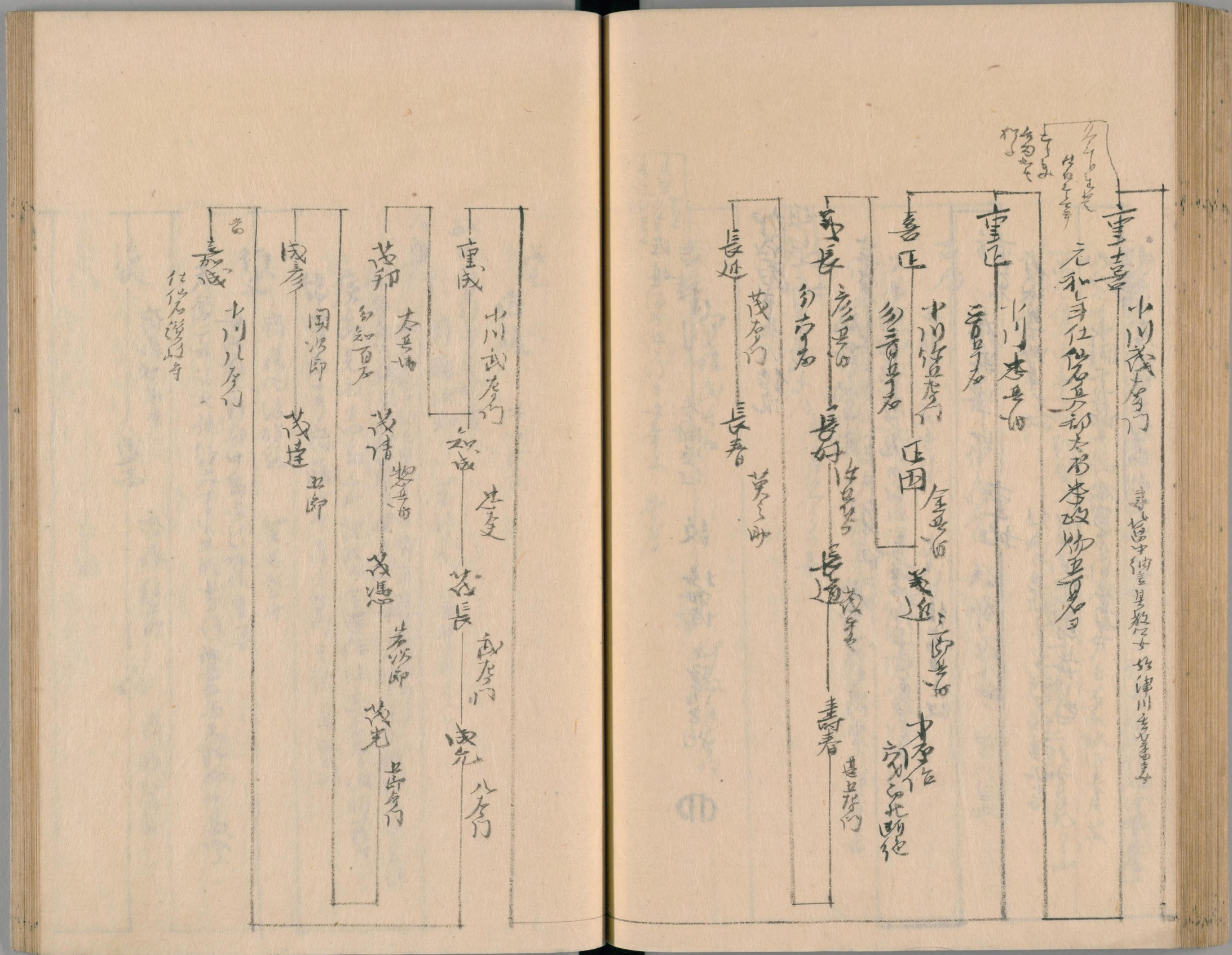
吉長　伊藤武兵衛　自吉長
初地頭小川邑後住伊香郡
住淺井郡寺久政

女子　嫁于磯野左京亮宗貞

女子　嫁于磯野源次郎宗親

宗重　小川少卿　陸奥守
名初郡主小川邑

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

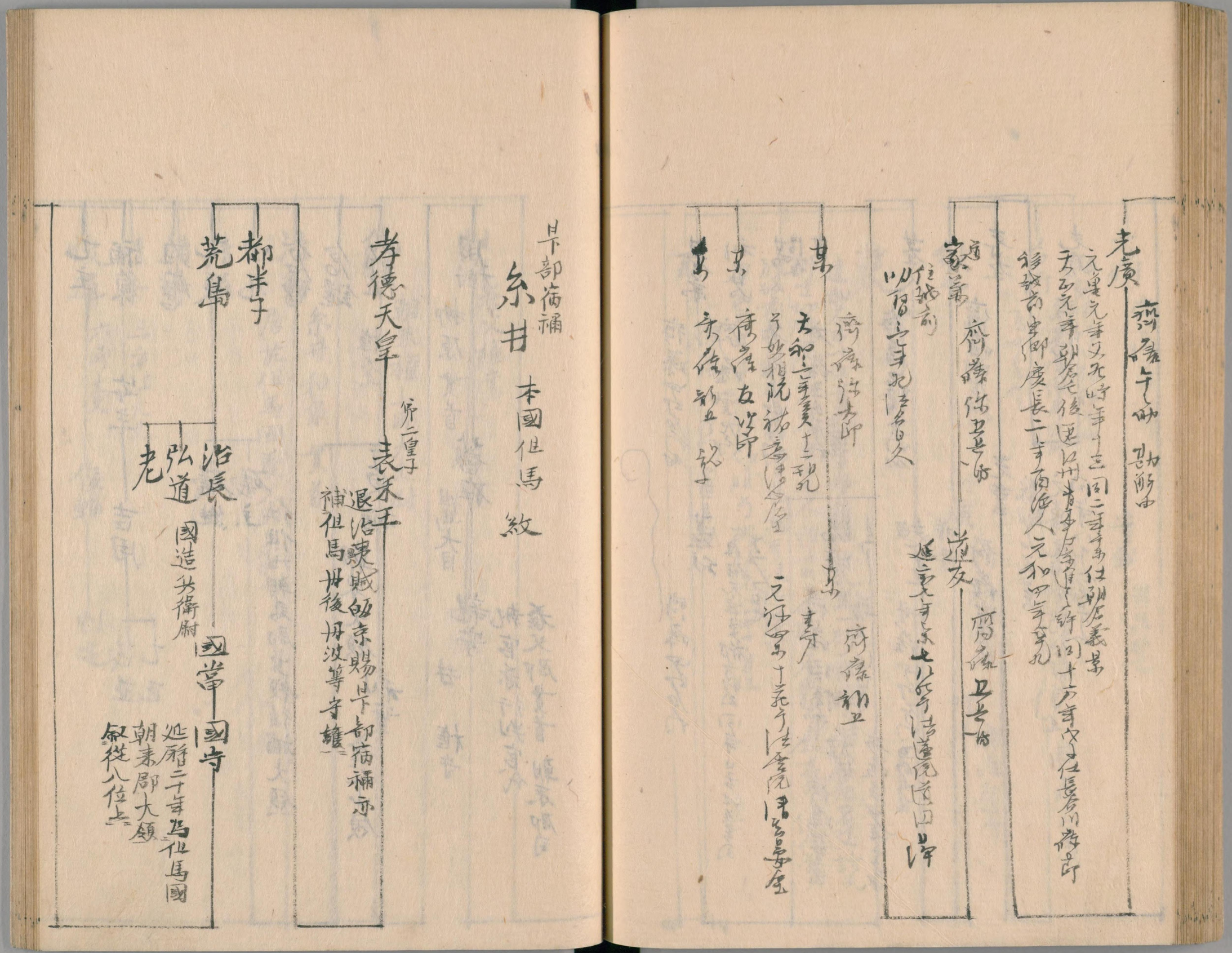


国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用

藤原
齋藤　本姓秋前
越前守秀幸二男
齋藤次郎　名治千代　永平七年二月生
母信濃守紀周防守従四位下
治承四年二月廿三日叙従五位下
侍従
左近衛少将
兼伊予守
元暦元年三月廿六日叙正五位下
文治二年正月廿七日任左馬頭
建久元年三月廿三日叙従四位下
同年十月廿九日任左衛門佐
同年十一月廿五日任右馬頭
同年十二月廿九日任左馬頭
正治二年正月廿日叙正四位下
建仁元年三月廿三日任左衛門督
同年十月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建仁二年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建仁三年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
元久元年三月廿三日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
元久二年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建永元年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
承元元年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
承元二年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
承元三年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
承元四年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建暦元年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建暦二年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建暦三年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建保元年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建保二年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建保三年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建保四年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建保五年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建保六年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建保七年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
承久元年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
承久二年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
承久三年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
貞応元年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
貞応二年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
貞応三年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
元仁元年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
元仁二年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
嘉禄元年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
嘉禄二年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
嘉禄三年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
寛喜元年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
寛喜二年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
寛喜三年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
貞永元年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
貞永二年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
天福元年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
天福二年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
文暦元年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
文暦二年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
嘉禎元年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
嘉禎二年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
嘉禎三年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
嘉禎四年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
暦仁元年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
暦仁二年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
延応元年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
仁治元年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
仁治二年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
仁治三年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
寛元元年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
寛元二年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
寛元三年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
寛元四年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
宝治元年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
宝治二年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長元年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長二年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長三年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長四年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長五年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長六年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長七年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長八年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長九年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長十年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長十一年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長十二年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長十三年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長十四年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長十五年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長十六年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長十七年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長十八年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長十九年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長二十年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長二十一年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長二十二年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長二十三年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長二十四年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長二十五年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長二十六年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長二十七年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長二十八年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長二十九年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長三十年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長三十一年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長三十二年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長三十三年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長三十四年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長三十五年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長三十六年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長三十七年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長三十八年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長三十九年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長四十年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長四十一年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長四十二年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長四十三年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長四十四年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長四十五年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長四十六年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長四十七年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長四十八年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長四十九年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長五十年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長五十一年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長五十二年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長五十三年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長五十四年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長五十五年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長五十六年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長五十七年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長五十八年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長五十九年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長六十年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長六十一年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長六十二年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長六十三年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長六十四年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長六十五年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長六十六年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長六十七年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長六十八年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長六十九年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長七十年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長七十一年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長七十二年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長七十三年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長七十四年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長七十五年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長七十六年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長七十七年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長七十八年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長七十九年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長八十年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長八十一年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長八十二年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長八十三年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長八十四年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長八十五年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長八十六年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長八十七年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長八十八年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長八十九年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長九十年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長九十一年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長九十二年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長九十三年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長九十四年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長九十五年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長九十六年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長九十七年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長九十八年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長九十九年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督
建長百年正月廿日任左兵衛督
同年十二月廿日任左衛門督

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

乙主
補泉 安主 吉用
在麿
乙長 磯継 磯主 任但州朝来郡少領後補大領
田丸
倉増
倉鑓
弘佐 権大史
貞補 朝来大領 利寛 養父小領
用樹 掃部頭 原賀首
藩在 備前大目 親安 井 権守
靱負 養父権守 則国
佐晴 朝来権三郎大史尉
清秀 糸井 和泉 賀首 居於但馬国養父郡糸井
清滋
清尋
清奉 三方江大史
俊通 六郎大史 俊輔 則定

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

清遠
宗高 朝倉與三大夫
高清 朝倉太郎支
清益 糸井 和泉貫首
清為 糸井
久岑 蜂 糸井方郎兵衛尉
平慶二年四月尊氏卿在於丹波國篠村時與朝倉務景
來干篠村爲於尊氏之館應元年爲足利直義遣於相州鎌倉
愚源卒後移於多田加戈郎於是乎疑芳林
七十二歳而死云

永春 糸井 和泉 前司
生國
高春 朝倉大膳亮家景嫡
糸井彈正左門

定清 糸井次郎左衛門
生國伊豆
居於上杉民部大輔憲顯安房寺嫡子

良純 糸井小次郎
生伊豆
爲上杉安房寺憲實
永享十年戊午八十六歳死享年九

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

良成 糸井助盛 左兵衛尉 某

隆 糸井下野守 常利 生伊豆

某 糸井次郎左衛門尉 某

某 仕上杉氏部屋頭 永正七年於能登国生害

某 糸井治部大輔 仕上杉龍若憲述 元亀元年二月廿日於千葉介会釈時励軍功 天正二年五月廿日憲忠卒去 部屋頭

某 糸井内匠助 仕上杉氏部屋頭 永正七年於能登国生害

某 糸井次郎左衛門尉 某

某 糸井治部大輔 仕上杉民部大輔憲房同憲政

某 糸井小次郎

某 糸井新八郎

某

松井

鎮定十代辰州刺史家範七世
千秋之子助教男

高範 千秋 次源守 二男

光範 一男 千枝 定範 千社 駿河守

敦範 千秋大宮司

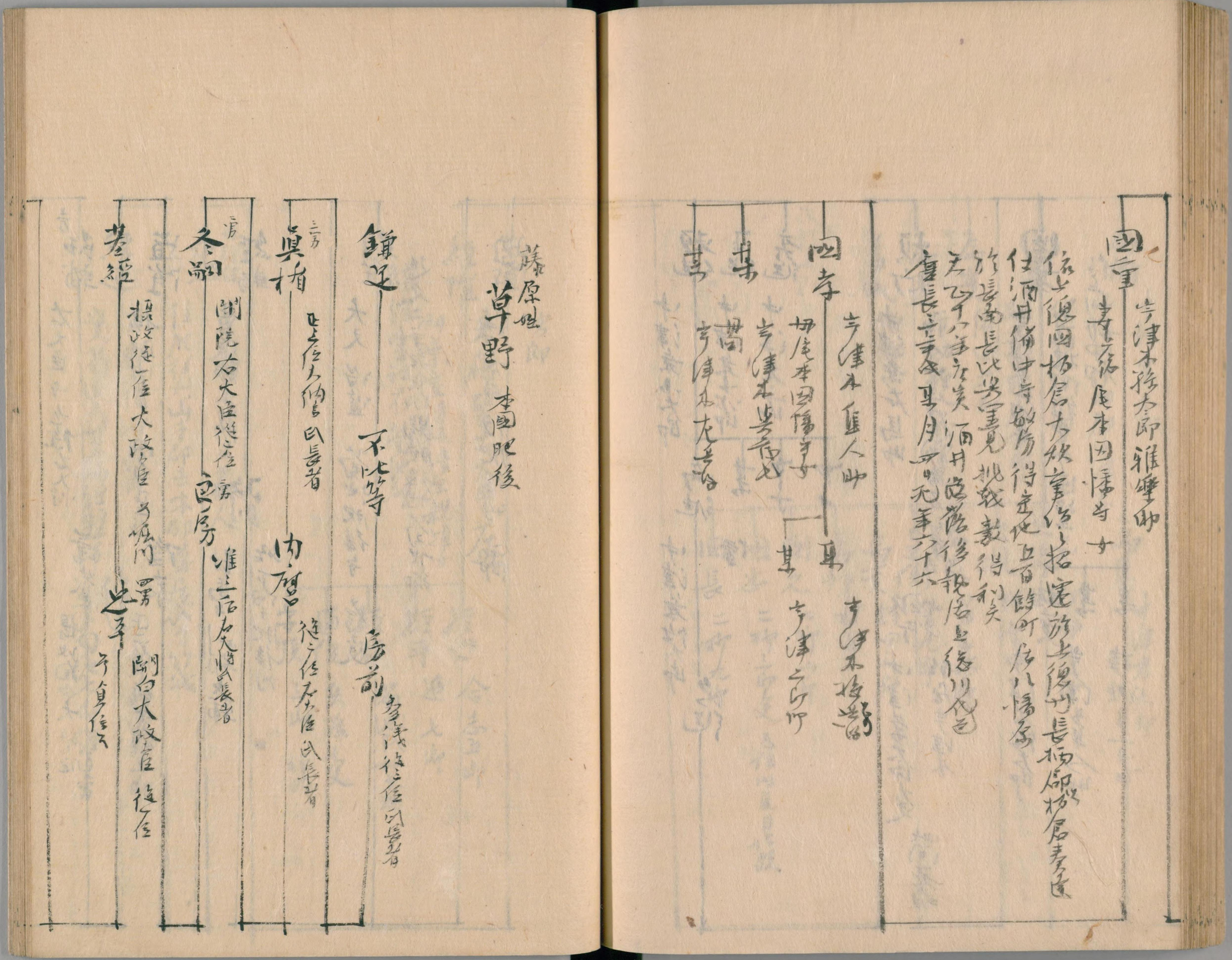
従五位下 左馬助 兼 肥後守 修理亮 修造兼 阿波守
康永卅二年乙酉四月廿日死于高源

英直 松井平衛門 智名 本名

女子 初作州住長田平内左衛門尉 後治上総州埴生郡名主 名乗九郎 刀長二尺六寸

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用


国重
宇津木矩次郎助
妻ハ依田豊前国悟当女
依田豊前拓倉大砂実信ノ招聘ニ応シ仕フ俗中奇敏ノ才アリ
後ニ豊前長比ニ異見ヲ抗シ終ニ免ス
文政十二年己丑月日死享年六十六
宇津木矩次郎助
妻
宇津木矩次郎
妻
宇津木矩次郎
妻
宇津木矩次郎

師輔 右大臣 六位 左大将
兼家 摂政内大臣 贈太政大臣
道隆 摂政内大臣 関白 正二位
隆家 正二位 権中納言
経輔 正二位 師 大納言
則隆 大夫 当麻 菊池肥後守
延久二年左兵衛佐 賜肥後守 菊池肥後守
隆藤 参議 任肥後守 卿
則 対馬守 師 大納言
政則 従下位 肥後守
隆家 正二位 中納言
隆 伊予守 従五位
経隆 蔵人 左衛門尉 従五位 肥後守
経遠 草野 従五位下 肥後守
実菊池氏祖 為輔 従四位下 菊池七郎 従四位下
経通 草野次郎 従五位下
永経 草野二郎 蔵人 従五位 肥後守 山本郡三木郎 為信 従五位下 筑後守
経平 近七郎
経頼 菊池氏祖 従五位下
通俊 兵藤次 従五位下 筑後守
安頼 従五位下 筑後守
経明 合志五郎
経隆 兵藤警古太郎 左近 次郎 従五位下 肥後守 菊池次郎 従五位下 肥後守 菊池氏祖 従五位下 筑後守 菊池氏祖 従五位下 筑後守 菊池氏祖 従五位下 筑

草野次郎友

永平 草野次郎
居肥後刀山事郎書布野氏
寿永之季多加源氏以皆平氏召書既而泉頼朝卿喜
貴忠功奏之任領後在国之人二百之年八十年
俊景 草野次郎

永任 草野彌四郎
経任 草野右馬允 重 草野彦
従五位

鎮明 草野
永経 草野彦作
延文二年丙午菊池初四之族等守鎮正行等
宮宇多大等加同事九代之孫永武
永和二丙辰年主妙
永和二年為大将軍征西府武敗後還
永武 草野次郎
武経 草野彌四郎 筑後守
重永 草野
鎮実 草野五郎
鎮永 草野次右衛門尉
天正五年丁巳鎮定沙汰後為詫宇佐
領内蔵之内居住為奉行為褒賞
故子孫代々肥後北岡
領主 惟永 太郎左衛門尉 加藤先手侍従清正公御家臣

一 鑓貞 草野五郎九字ノ
生肥後
肥前後州ノ住ニ移ル
子正平十年乙未年ヲ以テ卒ス
法名ハ山終根ト云
鑓貞カ住ス所ノ地ヲ號ス
作名備前ニ在リ
草野孝平氏 小五郎
母
生肥後
寛永十五年戊寅
卒 筑中酢屋町ニ住ス
法名ハ
天

平姓
井口 丰田相模
紋ハ三ツ
根元天皇五代村岡親王ノ
三浦流ヲ鎌倉ノ郷義明カ
義連後胤ニ三浦介時高事
高救 三浦介 於修理
英房ヨリ上杉修理大夫持朝ニ至
雖継時高ノ家智仍世ニ
同シ上杉家
義同 三浦荒次郎 三浦介 陸奥守
若年ヨリ病後ニ剃髪ス
新井城ニ平正十五年戊寅ニ為北条宗

自害

義時 三浦陸正左衛
陽房州里見左馬頭義下於鴻野墨戰死

時網 正本之卿 大膳亮
貞三浦道寸義同男
陽房州里見參

義綱 三浦平大夫 号一文字道
天文七年義又戰北条氏綱而退於相州井口及長仕北條氏綱
剃髮号一文道 年六十三歲卒

義房 三浦左衛門
生於相州

義清 井口陸正
生於相州

義清 井口陸正 信重 井口源治
生於相州

陽北條氏康氏政相州西屋落城後移居於井口移号長者

義晴 井口左次郎兵衛
慶長廿年又戰北條氏綱而退
在城外秘信重之子居河州
若江万治二年六十九
号浄光院法耀日慶
寺伊東左門
万治二年六月九
于領高院妙到

信忠 井口卿房門
実文十二年六月九日
号等行院蓮耀日喜
寺高橋自府 実文二年六月二十九
于清雲院妙光

義重 井口孝房門
延宝二年六月九
号等雲院覚雲日高

井口八郎右衛門 延享二年乙丑廿六日卒 法名伊津花女 老照院妙田日浪 寿高橋九右衛門女 元文二年丁巳廿九日卒 寿院妙童日長

武州多摩郡関戸 法輪山本立寺開基 寛保十亥年日修 (花押)
譜曰往昔三浦荒次郎義澄之末孫武下于関戸 時年享久筆而改井口氏執居於武州豊島郡関戸 称井口陣出義清源子傳于今焉 為義重有高免状於千町之郷寺 義又者嘯絵画為割 為 近清代辱因于神祇由勤功抜特料頂戴之及老裏陽居于當邑仍隆鉾者尚多唯以其家為正統年修碑記曰于貞享命誌之

法名井口道哉 近清
陣中 落髪
井口平右衛門 時繁
井口弥右衛門 義長

近清 井口甚哉 于落髪 時繁 井口弥右衛門

甚哉 井口政右衛門 三男 安信 井口平右衛門 妻

安信 井口政右衛門 三男 住武州豊島郡関戸

安政 井口敬光 住江戸麹町

井口家系流
武州豊島郡関戸 井口道右衛門 同房之主 本吉前新四 井口源右衛門 同金兵衛 同新五 同治兵衛

井口権之丞
井口安房
法雅山本寺
井口院
井口慈光寺
新井六郎
新井次郎
新井六郎
新井六郎
新井六

知親　新井源三右衛門尉
居武州足立郡六月成田
法名観法
新井庄支

某
新井庄右衛門
女子
親行　新井出雲守
属大行源頼
行廣
新井源次
廣継　新井帯刀
仕後北条氏賜三百貫文

親治　新井弾正左衛門
仕管領上杉家
親永　新井新右衛門尉

治常　新井源太左衛門
女子
女子
基行　新井善兵衛尉　武蔵国
女子

行能　新井理兵衛
居並木
女子　新藤五信俊室

付北條氏政与力名字見
合戦之事功加候旨朱印
領状并足利国朝臣源氏
書下中野書並書振引

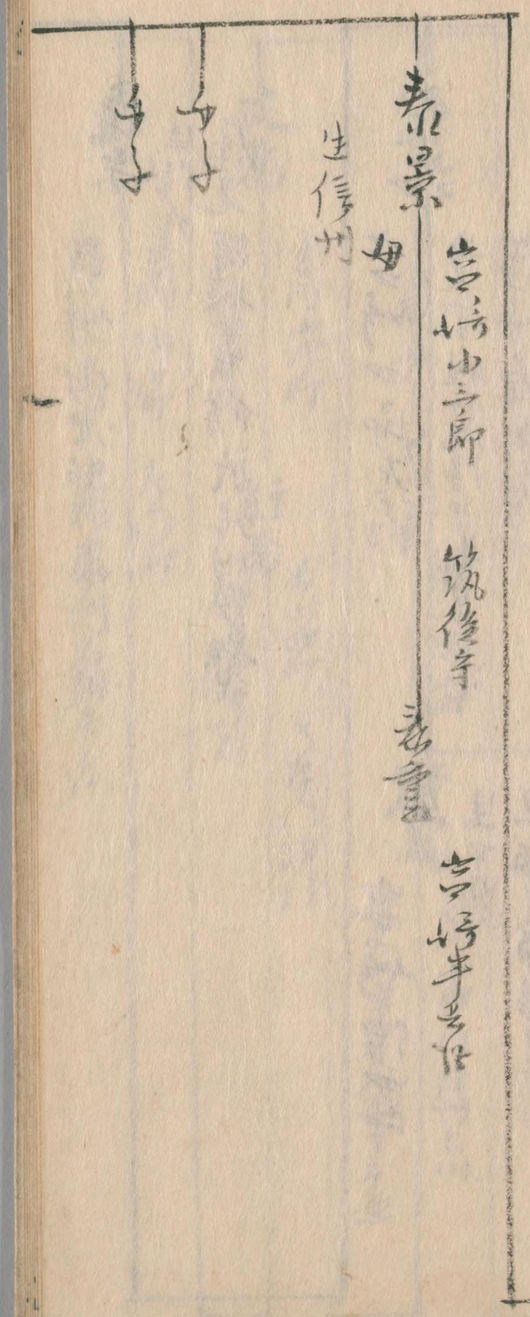
天正年中與武田信玄和睦後数度攻
出了勝負事由
子孫之事不知

女子　娘　岡部善四郎久忠

子孫不知

大石十人事左衛門尉
親居新井知新参法名

宮崎　本國信濃　甲斐
筑後守
従五位下
従四位下
左近衛少将
従三位
参議
宮崎筑後守



国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

素寂　宮崎四郎左衛門尉
生信乃
保元宮崎素脩於信州而戦死

素元　宮崎四郎左衛門尉
更国姓筑後守号宮崎
室母原肥後守女
生信州
武田晴信之後沙入勢原于甲州

某　宮崎弥四郎
生子更
仕酒井備後守忠次

某　宮崎武左衛門

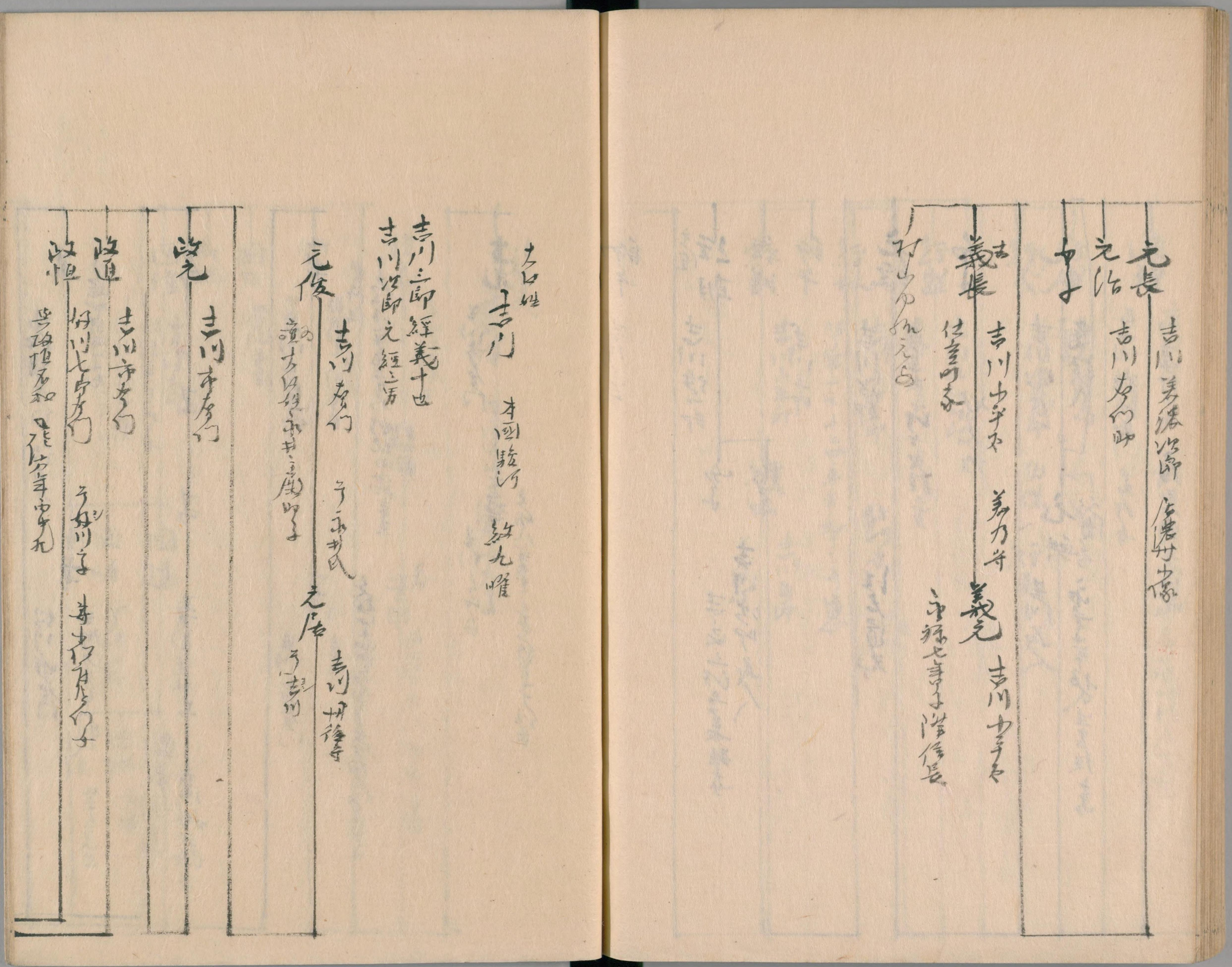
某　某左衛門尉
兄玉晴乃　寿

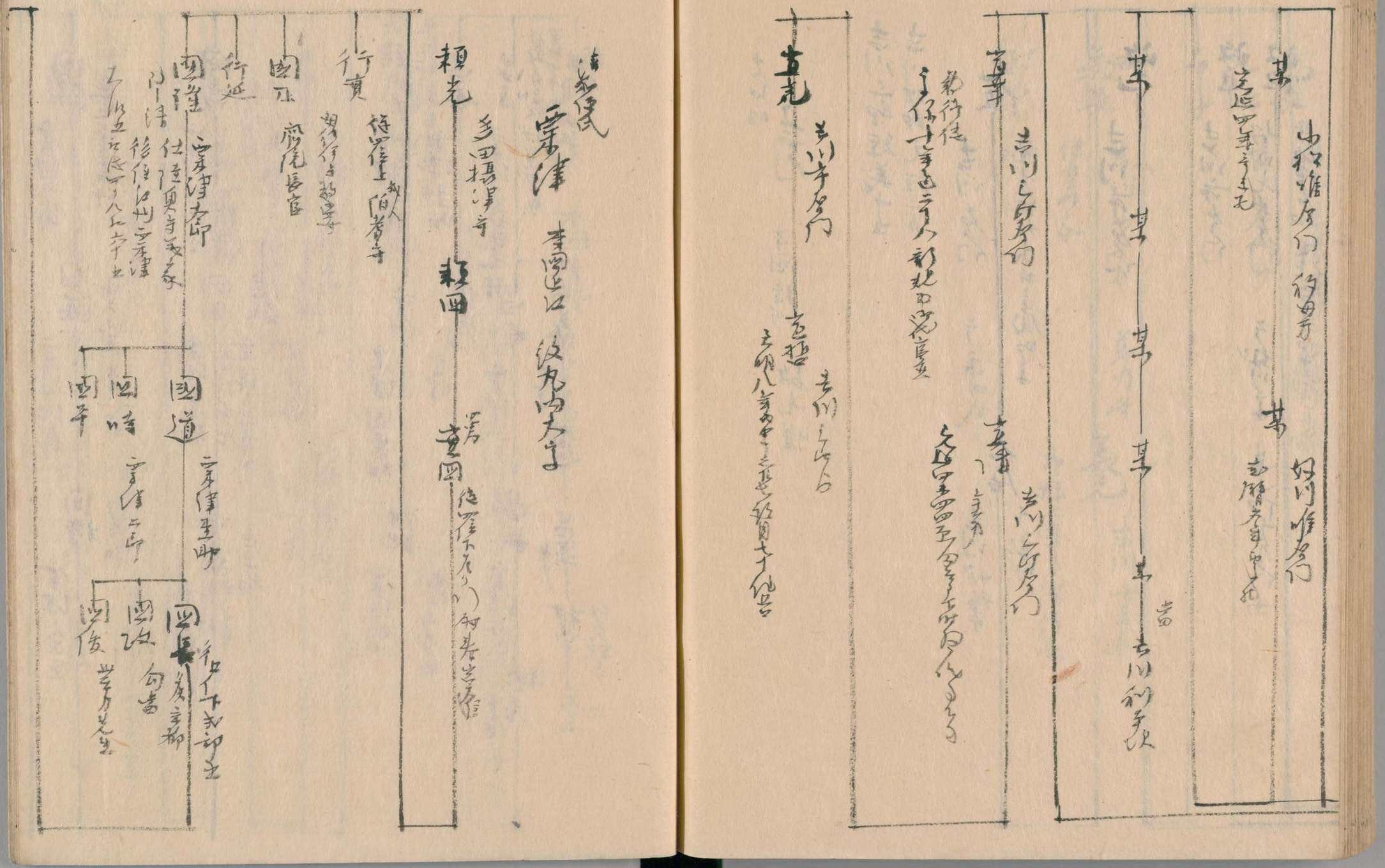
薩家
吉川

経定　右近将監　武部権大丞
高技　清定　維敏　為軍　為業　為棟　為政
清定　為理　為信　為経
清定　為義　駿河馬廻
為義　経義　吉川三郎　住駿州吉川
慶長四年正廿八没于年四十
友幕　吉川次郎右衛門尉　経幕　経倫　伯耆守
経光　吉川治部左衛門尉　従六位下侍従兼刑部大輔生年

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用

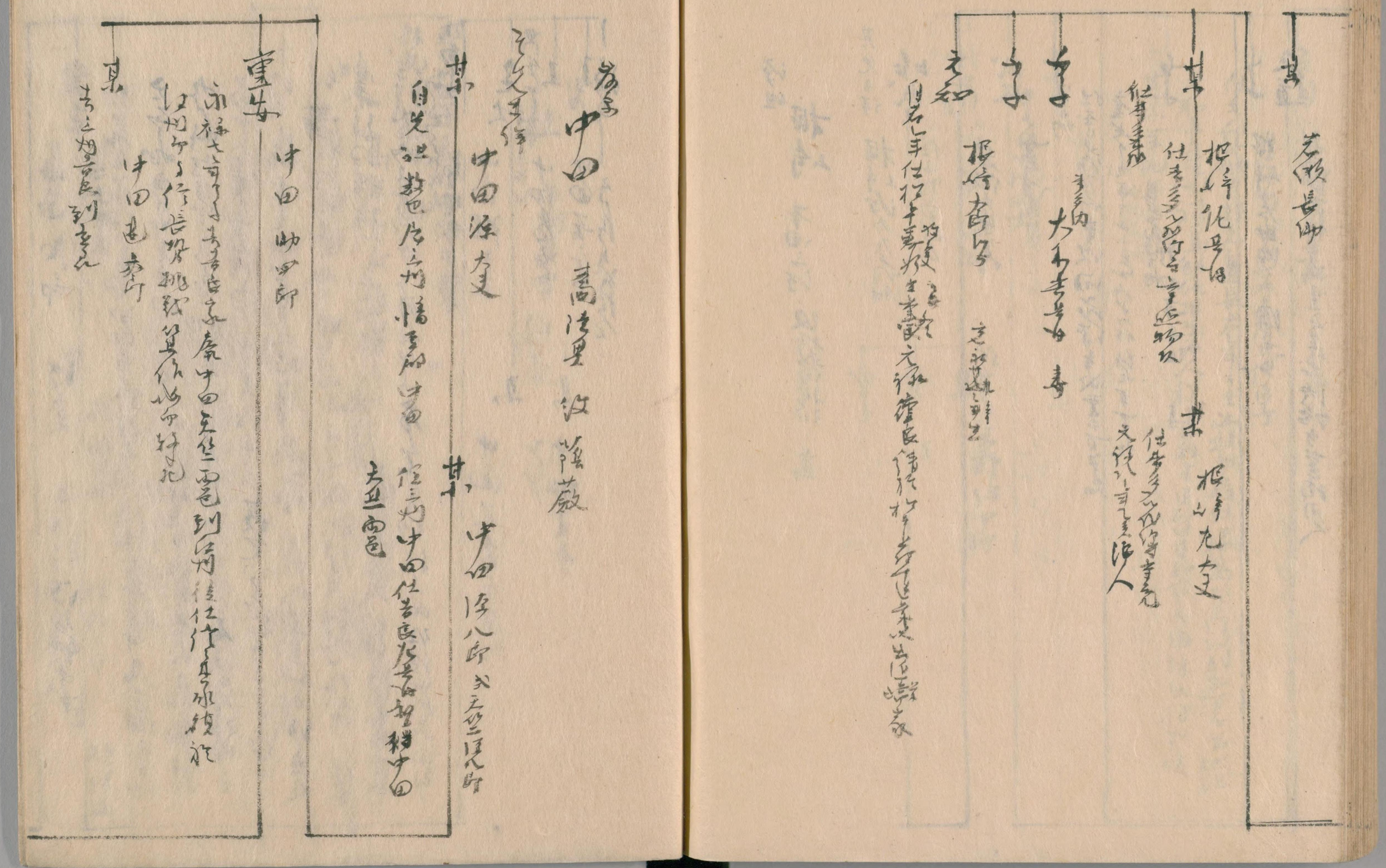

吉川美濃守源朝臣
元長
元治
吉川左衛門尉
吉川中務大輔
義長
義元
吉川中務大輔
吉川左衛門尉
吉川中務大輔
吉川左衛門尉
吉川左衛門尉
吉川左衛門尉



国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

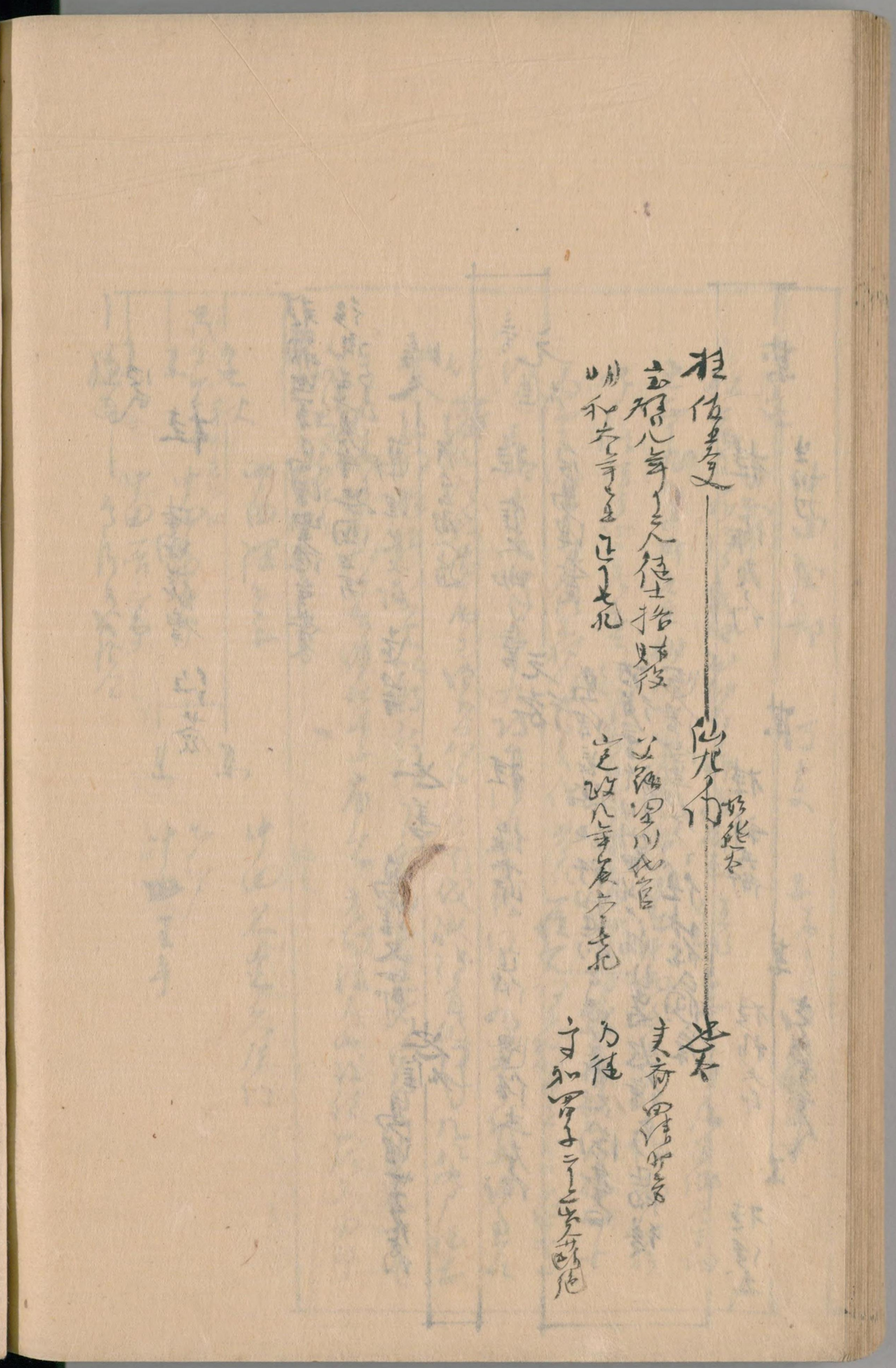
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

838
297
116



国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用